

大分県公立学校 教職員の皆様へ

このたびの教員採用選考試験等における県教育委員会幹部職員等による贈収賄事件は、教育行政に対する信頼を根底から失墜させました。

この事件は、教育現場で子どもを前に、毎日、汗を流して教育実践に取り組まれている皆様の信頼を裏切るものであり、残念の極みです。

このような事態に立ち至^{ゆるが}っている中、皆さん方においても、今回の事態を本県の教育関係者全体に^{ゆるが}せにできない課題を突きつけられたものと受け止めてほしいと思っています。

そこで、皆さんに訴えお願いしたいことがあります。

それは、人づくりという教育の原点に立ち帰り、学校現場で実績を一つ一つ積み重ね、保護者に、地域に、成果をしっかりと示していくことが何より大事だということです。学校現場の先生は教育実践者として、県教委職員は、人づくりの場にふさわしい学校運営がなされ、教育の向上が図れるように支援するというそれぞれの役割を改めて認識し、子どもたちの将来のために、今何をすべきか、今こそ、全ての県教委職員、学校現場の教職員が結束して考え、行動することが必要です。

20年度教員採用選考試験において、不正な方法による合格者21名を確認し、去る9月8日、20名の現職教員に対し、退職辞令、採用取消辞令を交付しました。この4月晴れて採用され、希望をもって教壇に立ち、子どもたちに寄り添って教育を実践してこられた若い先生の心情を思うと教育行政に携わる一人として、また、責任者として、断腸の思いであります。

しかしながら、選考試験において不正が判明した以上、どんなに早くても本来の姿に正さなければなりません。

保護者、県民の願いは、子どもたちの健やかな成長にあります。その願いに応えるべく、皆さんとともに組織一丸となって、大分の教育の再生に向けて取り組む決意です。

苦しいときですが、健康に留意され、将来を担う子どもたちのために全ての教職員の皆さんの力を結集していただくことを切に願うものであります。

平成20年9月11日

大分県教育委員会教育長 小矢 文則